

清流と美林に囲まれた北東北の 新・多核交流定住都市圏をめざして

米代川エコ・ハビ・タウンズ

— 米代川流域地方拠点都市地域基本計画 —

「米代川エコ・ハビ・タウンズ」とは…

米代川の清流と白神山地等の美林などの、流域の豊かな自然とそこから生まれた農林水産業の恵みを継承しつつ（エコ：E c o l o g y）、21世紀の健康的・文化的な生活環境の実現を目指し（ハビ：H a b i t a t i o n）、複数の個性ある核がネットワークするとともに、内外の交流による役割分担を図り（タウンズ：T o w n s）、「職、住、遊、学」の調和のとれた活力ある地方拠点都市の形成を目的とする、米代川流域拠点都市地域基本計画のキャッチフレーズです。

昨年八月十三日付で、県北十六市町村、人口約二十九万二千人、面積三千七百七十二平方メートルの地域が、「米代川流域地方拠点都市地域」に指定されました。その後阿仁町、上小阿仁村を加えた十八の市町村で構成する「米代川流域地方拠点都市地域整備協議会」を設立し、拠点地区を設定する中心都市を、西から能代市、鷹巣町、大館市、鹿角市の四市町として、地域整備の基本計画策定作業を進めてきました。今年五月中旬までに策定された基本計画案は、五月三十一日付で県知事の承認を得ています。

潜在能力を生かした 活性化を目指して

県内では、県都秋田市への都市機能や人口の集積は進んでいます。それが、それ以外の圏域では人口の流出が生じています。均衡ある県の発展のためには、地域の特性を生かし、創意工夫をこらした地方拠点都市の整備が急務になっています。米代川流域地方拠点都市地域には、世界遺産に指定された白神山地や、十和田、八幡平などの豊かな自然といった国土資源があります。さらに、本地域は北東北の中心に位置するという、地域発展のための潜在能力も持っているのですが、これまでは高速交通体系の整備が遅れ、その能力を十分に生

かしきれていませんでした。今後は、平成十年開港予定の大館能代空港や、東北縦貫自動車道と結ばれる日本海沿岸東北自動車道の整備などによって都市機能の集積を進め、各都市がそれぞれ潜在能力を発揮できるようにしなければなりません。

このような背景のもとで策定された基本計画は、拠点地区を設定する四市町の都市機能強化を軸に、各市町村が相互に連携をとり、かつ地域の特性に応じた整備を進めることで総合的な活性化を目指すこととしています。

大館都市核は 複合交流拠点に

米代川流域地方拠点都市地域には四つの都市核が設けられ、それぞれが個性を生かした役割を担うこととなります。

大館市は、本地域が北東北の中心に位置するという地理的な好条件を前面に押し出し、「複合交流拠点」としての役割を担うことになっています。このため、職・住・遊・学が多様な機能が融合した産業基盤の整備を進めるとともに、大規模な工業団地の早期造成を目指します。また、情報処理などのサービス業の振興をしながら、都市型産業の需要を満たす高度な技能を有する人材や、看護・福祉部門の人材を育成する教育機関の充実を図っていきます。さらに、多

目的ドームなどの交流施設の整備によって、見本市などのビジネス関連の交流も促進していくことにしています。

「職・住・遊・学」の 機能を備えた街を つくりま

大館市には、流域全体の発展をリードするかたちで、二つの拠点地区が設定されます。

一つは「大館産業・文化学園拠点地区」。具体的に実施される事業としては、「大館駅周辺地区都市拠点総合整備事業」、「御成町南地区住環境整備事業」、「秋田桂城短大建設事業」などが挙げられます。これらの事業により、都市基盤が整備された街づくりや、中心都市に求められる人材の育成、教育水準の底上げ、さらには若者の地元定着化などを図ります。

もう一つは、「大館スポーツ・イベント交流拠点地区」。これは、「大館地区多目的ドーム建設事業」や「ドーム周辺整備事業」の実施によって具体化されてくるものです。大館地区多目的ドームは、全国規模の様々なイベント・スポーツなどの開催に対応できるように創出の場として整備され、ドームを活用しての人、物、情報、文化の交流を促進していきます。このほかにも基本計画には、従来の自然的魅力に加え、職・住・遊・学の機能を備えた都市的魅力